

H30

(2018年)

災

北海道・大阪・島根での地震、西日本豪雨、大型台風到来、記録的猛暑など、日本各地で起きた大規模な自然「災」害により、多くの人々が被「災」しました。自助共助による防「災」・減「災」意識も高まり、スーパーボランティアの活躍にも注目が集まりました。新元号となる2019年に向けて、多くの人々が「災」害を忘れないと心に刻んだ年でした。

(参考：公益財団法人日本漢字能力検定協会 HP)

浙江省交流

月日		時間	行程	宿泊	
1日目	8/8 (水)	午前	富士山静岡空港 集合・出発式 富士山静岡空港 出発 (MU2026 便)	浙江文華大酒店 (杭州市)	
		午後	杭州蕭山空港 到着		
2日目	8/9 (木)	午前	移動 杭州市→義烏市 義烏市内視察 / 義烏貨物港①、金士敦物流管理会社		
		午後	移動 義烏市→杭州市 日系企業研修 / 東芝開利空調有限公司		
3日目	8/10 (金)	午前	コース別研修 / 企業 (杭州市燃气集团有限公司) 学校 (天長小学校) ④		
		午後	現地企業研修 / 浙江大華技術股份有限公司⑤ 商業施設研修 / 龍湖・濱江天街ショッピングセンター		
4日目	8/11 (土)	午前	杭州グループワーキング		ホームステイ先
		午後	対面式・ホームステイ		
5日目	8/12 (日)	終日	ホームステイ 歓迎レセプション	浙江文華大酒店 (杭州市)	
6日目	8/13 (月)	午前	移動 杭州市→上海市	上海吉臣酒店 (上海市)	
		午後	日系企業研修 / 上海高島屋百貨有限公司②③ 上海夕食交流会		
7日目	8/14 (火)	終日	上海グループワーキング		
8日目	8/15 (水)	午前	上海浦東空港 出発 (MU2019 便)		
		午後	富士山静岡空港 到着 到着式・解散		



①



②

③

①義烏貨物港

中国で「港」とは、税関・検疫に関わる仕事という意味を持つそうです。

②③上海高島屋百貨有限公司

ネット販売が主流になる中国において、百貨店ならではの品揃えや日本製品の開拓など、日本企業ならではの取組についてお話を伺う大変貴重な機会となりました。

④天長小学校

書道の授業では、参加者も一緒に筆を執り、児童との交流を深めました。

⑤浙江大華技術股份有限公司

製品展示ホールで、会社概要と製品 (セキュリティーカメラ等) の説明を伺いました。



④



⑤

杭州市燃气集团有限公司では、グリーンエネルギー体験センターを見学

静岡県交流

月日		時間	行程	宿泊
1日目	11/16 (金)	午後	富士山静岡空港到着 静岡市へバスで移動 役員懇談 歓迎レセプション	ホテルアソシア静岡 (静岡市)
2日目	11/17 (土)	午前	青年意見交換会	ホームステイ先
		午後	静岡県内視察 / 静岡県地震防災センター⑥ ホームステイ出発式・ホームステイ	
3日目	11/18 (日)	終日	ホームステイ	ホテルアソシア静岡 (静岡市)
4日目	11/19 (月)	午前	静岡県内視察 / 静岡県立大学⑦	
		午後	静岡県内視察 / 株式会社ヤクルト本社富士裾野工場⑧ 東京へバスで移動	



⑥静岡県地震防災センター

体験コーナー「地震ザブトン」で地震の揺れを体験しました。

⑦静岡県立大学

記念品交換では、陳団長(左)から、合田副学長に掛け軸を贈呈しました。

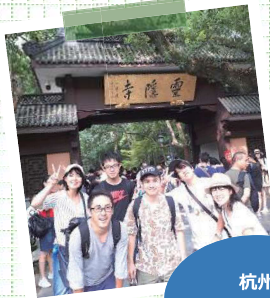
⑧株式会社ヤクルト本社富士裾野工場

乳製品の培養・調合工程、充填工程の見学を行ったあと、紹介ビデオにより、会社概要や商品の説明を受けました。

参加者レポート



浙江省交流
ホームステイ



杭州
グループワーク



上海
グループワーク



静岡県交流
ホームステイ

浙江省交流前はホームステイのことを心配していた参加者の方も、いざホームステイから帰ってくると、中国の青年とすっかり打ち解けて、まるで長年の友達のように接していたのがとても印象的でした。そんな姿を見て、こちらまで嬉しかったですし、この事業の醍醐味を肌で感じました。

令和2年度はコロナ禍により、対面交流はできませんでしたが、少しでも早く交流が再開できることを祈っています。



漆畑 雅人【平成30年度事務局】

R1
(2019年)

令

新元号「令」和に新たな時代の希望を感じた一年。「令」和が日本最古の歌集・万葉集からの出典で、海外に Beautiful Harmony = 美しい調和と説明されたことや、「令」の字が持つ意味・書き方にも注目が集まりました。また、法「令」改正、法「令」順守、警報発「令」、避難命「令」としても使われた年でした。

(参考：公益財団法人日本漢字能力検定協会 HP)

浙江省交流

月日		時間	行程	宿泊	
1日目	8/7 (水)	午前	富士山静岡空港 集合・出発式 富士山静岡空港 出発 (MU2026 便)	杭州国際暇日酒店 (杭州市)	
		午後	杭州蕭山空港 到着		
2日目	8/8 (木)	午前	日系企業研修 / 東芝開利空調有限公司①		
		午後	現地企業研修 / 蕭山空港物流会社②		
3日目	8/9 (金)	午前	現地企業研修 / 科大訊飛③、微医		
		午後	コース別研修 / 学校 (浙江音楽学院) ④ 企業 (方回春堂) ⑤		
			商業施設研修 / 龍湖・濱江天街ショッピングセンター		
4日目	8/10 (土)	午前	杭州グループワーキング 台風9号の影響により、ショッピングセンター見学に変更		ホームステイ先
		午後	対面式・ホームステイ		
5日目	8/11 (日)	終日	ホームステイ 歓迎レセプション	杭州国際暇日酒店 (杭州市)	
6日目	8/12 (月)	午前	現地企業研修 / 阿里巴巴集団	上海吉臣酒店 (上海市)	
		午後	移動 杭州市→上海市 上海夕食交流会		
7日目	8/13 (火)	終日	上海グループワーキング		
8・9日目	8/14,15 (水,木)	終日	自由行動 台風10号の影響により、搭乗予定の航空機が欠航となったため、帰国日を8/14から8/16に変更		
10日目	8/16 (金)	午前	上海浦東空港 出発 (MU2019 便)		
		午後	富士山静岡空港 到着 到着式・解散		



①東芝開利空調有限公司

中国人従業員の方と意見交換を実施。中国での働き方について理解を深めました。

②蕭山空港物流会社

AI を利用した荷物の仕分け作業の様子などを視察しました。

③科大訊飛

音声認識の高い技術力を活かし、教育分野などにソフトを提供しています。



④浙江音楽学院

中国で10番目に開校した音楽学院。当日は、舞踊科の学生の演技を鑑賞しました。

⑤方回春堂

1649年創業の老舗の漢方薬局。日本とは漢方の位置づけが異なり、中国では「漢方医」と呼ばれる専門の医師がいるとのことでした。



静岡県交流

月日		時間	行程	宿泊
1日目	10/25 (金)	午後	富士山静岡空港到着 静岡市へバスで移動 役員懇談 歓迎レセプション	ホテルアソシア静岡 (静岡市)
2日目	10/26 (土)	午前	静岡県内視察 / ふじのくに茶の都ミュージアム⑥	ホームステイ先
		午後	青年意見交換会 ホームステイ出発式・ホームステイ	
3日目	10/27 (日)	終日	ホームステイ	ホテルアソシア静岡 (静岡市)
4日目	10/28 (月)	午前	静岡県内視察 / 常葉大学⑦	
		午後	静岡県内視察 / AOI-PARC⑧ 東京へバスで移動	



⑥ふじのくに茶の都ミュージアム
博物館や庭園の見学、茶道体験を行いました。



⑦常葉大学
学生との交流では、中国語での会話が弾み、和やかな雰囲気に包まれました。



⑧AOI-PARC
概要説明を伺った後、研究用温室等の設備を見学しました。

参加者レポート



浙江省交流
ホームステイ



上海
グループワーク



静岡県交流
ホームステイ

「台風」にご縁のあった浙江省交流。4日目に杭州に台風が接近…市内の観光施設や道路が閉鎖し、日程を変更することになりました。最終日には静岡に台風が接近…帰国が2日後に延期になりました。思いがけない出来事に遭遇することで、参加者同士の絆は深くなり、中国の方々の優しさに触れることができたように思います。

この事業の魅力は、人と出会い、触れあい、想いを共有できることだと思います。今は、参加者の皆さんが、中国の友達に再会できる日が早く来ることを祈るばかりです。



鈴木 貴絵【令和元年度事務局】

R2
(2020年)

密

世界中が新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けた一年。“3「密」”という言葉が提唱され、生活・行動様式が「密」にならないよう国民が意識し続けました。海外でも3C（Crowded places, Close-contact settings, Confined and enclosed spaces）としてメッセージを発信されるまでに。また、政治判断が「密」室で行われたことや芸能界での「密」会報道などでも使われた年でした。

(参考：公益財団法人日本漢字能力検定協会 HP)

令和2年度の日中青年代表交流は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受け、訪問による交流はすべて中止となってしまいました。しかし、そうした状況においても、浙江省との“つながり”を維持すべく、新たな取組を展開しました。

ホームページを活用した交流活動

新型コロナウイルス感染症の影響で例年通りの交流が難しい中、過去参加者の方々にコロナ禍でもできる日中交流事業のアイデアを募集。その結果、日中青年代表交流のホームページを活用し、日本と中国の青年の交流の場とすることとなりました。

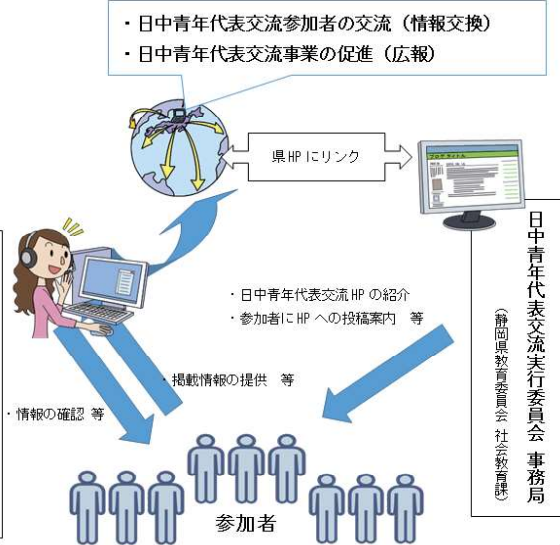
ホームページには、「あなたの思い出の1枚」や「ステキな静岡」などのテーマに沿った投稿が続々と掲載されています。

ホームページ URL

<https://pengyou8shizuoka.jimdo.com>



ホームページ作成・管理
平成28年度日中青年代表交流事業参加者
津田直子様



オンライン会議の実施

令和3年1月28日（木）静岡県と浙江省を Zoom でつなぎ、関係者によるオンライン会議を実施しました。交流の継続を確認するとともに、eスポーツによる交流など、新たな取組についても意見交換が行われました。

【出席者】敬称略
<静岡会場>

木苗 直秀
栗原 績
松井 和子
山下 英作
影島 英一郎
齋藤 和法
望月 菜摘
平野 一恵

静岡県教育委員会教育長
静岡県日中友好協議会理事長（日中青年代表交流実行委員会会長）
静岡県教育委員会教育監
静岡県教育委員会社会教育課長（日中青年代表交流実行委員会副会長）
静岡県地域外交局地域外交課長（日中青年代表交流実行委員会委員）
令和元年度参加者（日中青年代表交流実行委員会委員）
平成30年度参加者
静岡県日中友好協議会常務理事 ※通訳

<浙江会場>

余 亦平
顧 国焜
翟 帥
張 月祥
宋 元菁
徐 慶雲
<その他>
施 華忠
浅原 敏治

浙江省人民政府外事弁公室副主任
浙江省青年連合会副主席（浙江大学医学院附属第一医院副院長）
浙江省人民政府外事弁公室アジアアフリカ処副処長
浙江省人民政府外事弁公室アジアアフリカ処調研員
浙江省青年連合会副秘書長
2022 杭州アジア大会組織委員会 ※通訳



「コロナ禍でもできる日中交流事業」のアイデアを募集したところ、過去参加者の皆様から多くの応募があり、本事業に寄せる熱い思いを感じました。私は、今年度から事務局となったばかりで、中国に渡航したことはありません。一日も早く対面での交流が再開し、本事業を実施したいと強く思いました。今後も参加者同士のネットワークづくりや、本事業へ参加を希望する人への情報提供を積極的に行っていきたいと思います。

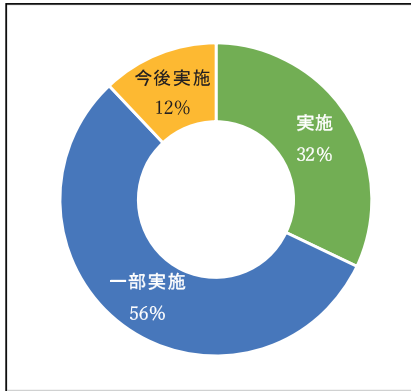


土屋 雅志【令和2年度事務局】

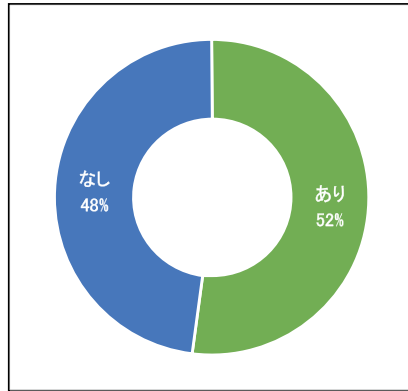
3 交流の成果

1 過去参加者の事後活動状況 ※過去参加者を対象に実施した「現況調査」より（令和元年度実施）

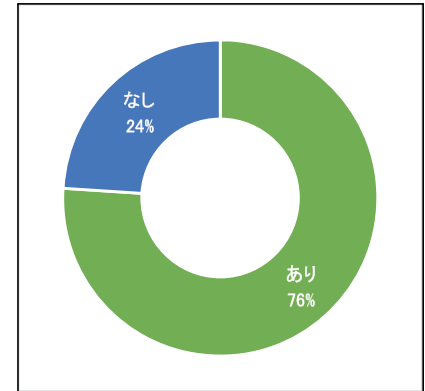
① 日中交流架け橋プランの取組



② ホームステイパートナーとの交流



③ 参加者同士の異業種交流



2 過去参加者の主な事後活動事例

参加者の所属	活動内容
企業①	中国企業との取引を開始しました。また、一緒に参加した静岡県青年との“つながり”を活かし、自社の業務の一部を当該青年の所属企業に移管することができました。
企業②	全国各地で行われた自社の店長会議にて、交流の成果を報告し、中国の現状を伝えました。
学校①	事業参加後に、上海の語学学校に留学しました。帰国後は、所属校の授業で、生徒が中国に関心を持てるよう、中国語を教えています。
学校②	浙江省の学校との姉妹校交流を実現させました。
学校③	所属校の総合的な学習の時間を利用し、キャリア教育の一環として、自身が体験した中国の現状等、交流の成果を報告しました。実際に行って、見て、体験することの大切さを伝えました。
学校④	県内在住の留学生に対し、日本での生活支援を行うプロジェクトを立ち上げました。
行政①	浙江省に派遣され、浙江大学や浙江省政府機関での研修を受けました。帰国後は、日中友好関係業務に従事しています。
行政②	近年交流が途絶えていた学校同士の学生交流を再開させました。

3 過去参加者インタビュー

今回は、浙江省の学校との姉妹校交流のコーディネーターに尽力された静岡県立三島南高等学校の長岡さん（平成 25 年度参加者）にお話を伺ってきました。

日中青年代表交流に参加して

事務局 この度は、インタビューをお引き受けいただきありがとうございます。長岡さんは本事業参加後、浙江省の学校との姉妹校交流のコーディネーターに尽力されたと伺っておりますので、今回その体験談をお話しいただき、記念誌に掲載させていただきたいと考えています。

それでは早速、お話を伺っていききたいと思うのですが、長岡さんが本事業に御参加いただいたきっかけからお話いただけますか。



長岡 私が参加したのは平成 25 年度なのですが、当時の勤務校に参加者募集の案内が送付され、それを拝見したのがきっかけでした。通常の旅行では行くことのできない企業や学校を訪問し、お話を伺えるということに興味を持ち、参加させていただきました。

事務局 実際に参加されてみていかがでしたか。



長岡 とても良い経験をさせていただいたと思っています。

ホームステイでは、はじめは気を遣っていたのですが、熱烈におもてなしをしてくれて、段々と打ち解けていきました。帰国後もペアの青年とは交流を続けており、これまでに 2 度杭州でお会いしたり、静岡県と浙江省の友好提携 35 周年記念事業の際にもお会いしました。

また、浙江省交流ではいろいろな場所を視察させていただきましたが、特に、中国の学校教育における意識の高さには驚きました。学生は夜遅くまで勉強していますし、先生方も膨大な業務量にもかかわらず、生徒のために一生懸命働いていました。

さらに、日本人の参加者同士の交流もとても有意義でした。正直なところ、参加前は、「1 週間も一緒に活動するのは息苦しいかな」とも感じていました。しかし、始まってしまえばそんなことは全くの杞憂でした。「大人の修学旅行」といった感じで、本当に楽しかったです。寝食をともにすることで、お互いのことを深く知ることができますし、異業種の参加者との交流は、とても刺激になりました。当時の参加者は、お互いに高め合っていける大切な存在です。

交流実現に向けて

事務局 長岡さんは、本事業に御参加いただいた後、現在、勤務されております静岡県立三島南高等学校にて、浙江省の学校との姉妹校交流を実現されたわけですが、これにはなにかきっかけがあったのですか。

長岡 私が赴任したのは平成 29 年度なのですが、その翌年度がちょうど本校の創立 100 周年の年に当たっていました。本校では元々、同窓会が海外教育支援に力を入れておりまして、毎年上海や北京などに生徒を派遣していたのですが、年ごとに派遣先が異なっていました。そうした中、創立 100 周年記念の実行委員会の席にて、同窓会から「現地との関係性を深め、さらに充実した交流ができるよう、姉妹校交流をしてみても」との提案がありました。ただ、その時は準備期間も短く難しいとの結論に至り、いったんは話が流れました。

その 2 週間後、私は、静岡県と浙江省の友好提携 35 周年記念事業で中国を訪れたのですが、その晩餐会の席で、偶然、浙江省教育厅外事处处长、日本で言うところの教育委員会国際交流課長に当たる方と御一緒することになりました。その際、「勤務校では姉妹校交流は実施していますか」と尋ねられ、まさに交流先を探している旨をお伝えすると、なんと御紹介いただけることとなりました。あまりにとんとん拍子過ぎて、「神様のお導き」的な期待と、「目覚めたら夢だった」的な不安もありました。しかし、帰国後、浙江省教育厅の担当者の方から「貴校の資料をお送りください」と早速メールが入っていて安心しました。中国語に訳した本校の学校情報を提供したところ、浙江省麗水学院附属高級中学を御紹介いただきました。

事務局 すごく良いタイミングで、御縁があったんですね。

長岡 そうですね。貴会事務局をはじめ、三島市や三島市国際交流協会、静岡県日中友好協議会、現地コーディネーターをいただいた浙江省国際交流実業公司など、貴会を通じて得たネットワークが大変役立ち、中日ともに多くの関係者の御協力をいただき、交流を実現させることができました。様々な出会いやチャンス、タイミングに恵まれたと思っています。

姉妹校交流

事務局 実際に姉妹校交流では、どのようなことをされたのですか。

長岡 まず、平成 30 年 12 月に本校の生徒 15 名が浙江省を 4 泊 5 日の日程で訪問し、ホームステイや相手校の授業に参加させていただきました。その中で、生徒たちは中国語でのプレゼンに挑戦しました。自分たちで文章を考え、発声の練習も行ったのですが、その際、サポートしてくれたのが、私の知り合いで中国人の元留学生でした。この方は、私が平成 25 年度に日中青年代表交流に参加した際、現地通訳として参加された浙江農林大学の先生の教え子なんです。交流参加後に御紹介いただき、私が日本語を教えていたのですが、今回、本校の生徒がプレゼンの練習をするにあたり、中国語の文章の添削をしてくれたり、発音を確認するための録音テープを送ってくれたりしました。

また、訪問中は、本校卒業生の内田さんという方も訪ねました。この方は、上海で中華料理店を営んでおり、お店は現地フリーペーパーの年間アワードで上位にランクインするほどの腕前です。日本人が中華料理の本場である中国でお店を開くにあたっては、多くの苦労があったと思いますが、そうした苦労を乗り越えて、国際社会で活躍する先輩のお話は大変有益でした。

事務局 生徒たちの様子はいかがでしたか。

長岡 すごく充実した様子でした。ホームステイ先に一人で泊まるにしても、中国語でプレゼンするにしても、今までやったことのないことにチャレンジすることで、生徒自身が殻を破って成長したと思います。そんな姿を見て、交流を実現できて良かったと実感し、お力添えをくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

事務局 交流自体は 4 泊 5 日という限られた時間ですが、そこまでの過程も含めて、「チャレンジした」という経験は、必ず生徒たちの今後に活かされると思います。

平成 30 年は貴校の生徒が訪問したわけですが、その後、相手校の生徒も来静されたのですよね。

長岡 はい。翌年の令和元年 7 月に来静しました。その際には、ホームステイをしたり、本校の授業に参加いただいたりしました。家庭科の調理実習の授業で、おにぎりやみそ汁、だし巻き卵を作って食べたり、美術の授業ではステンシルアートでランチョンマットを作成しました。中国では実習系の授業が少ないようで、相手校の校長先生も興味深く視察されていました。



事務局 こうして双方の往来する交流が実現したわけですね。しかし、これからもっと交流を深めていこうという矢先だったと思いますが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が始まり、今日に至ります。このような状況ですが、両校の関係はいかがですか。



長岡 残念ながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、往来による訪問は中断せざるを得ない状況にありますが、そうした中でも、両校のつながりは続いています。

例えば、日本での流行が拡大している時期に、相手校からマスクの支援をいただきました。中国も大変な状況だったと思いますが、とてもありがたかったです。また、本校と相手校の職員間・生徒間でオンライン交流を実施したり、春節のグリーティングカードを送付したり、このような状況においても、できることを少しずつ積み重ねていくことで、両校の絆を深めていきたいと考えています。

事務局 そうした活動は、訪問による交流が再開できた時の礎になると思います。

姉妹校交流の今後の展望については、どのようにお考えですか。

長岡 交流自体は、本校の創立 100 周年を機に始まったわけですが、今後はもっと多くの生徒たちが相手校との接点を持つるようになることで、生徒たちがより主体的に活動できるようにしていきたいと思います。

事務局 それでは、最後になりますが、本事業の未来の参加者に一言いただけますか。

長岡 私は、日中青年代表交流に参加したことで、期待していたよりも、はるかに多くの収穫を得ることができました。メディアで見ている中国と、五感で感じる中国はかなりのギャップがあると思います。ぜひ、御自身で体験してみてください。